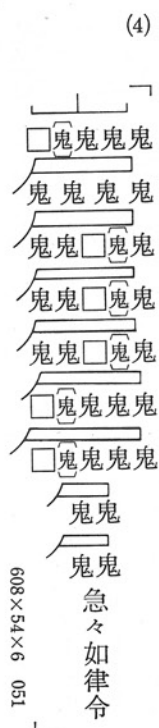


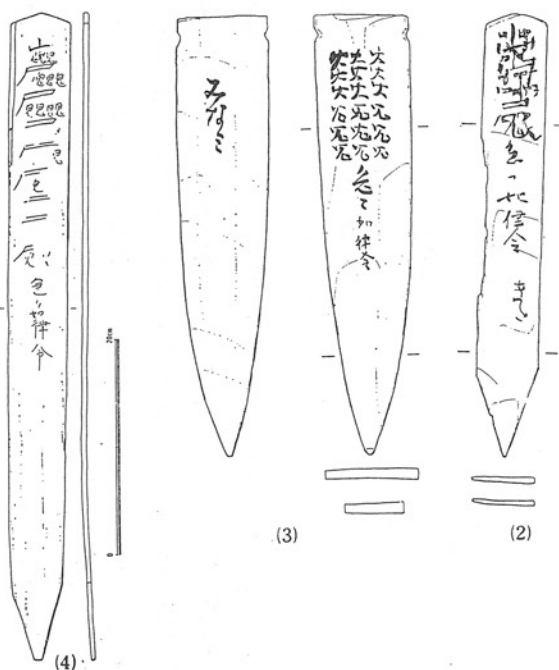
(1)

(1)は覆土、(2)(3)は井戸、(4)は土壙から出土した。これら呪符が出土している第二面は、一三世紀末～一四世紀初めと考えられる。四本の呪符は、ほぼ同時期に廃棄されたと考えられる。  
(2)の「きた」、(3)の「みなミ」は表記箇所は異っている(表・裏)が、方位を表わすものと考えられる。  
木簡の釈文については、奈良大学教授の水野正好氏、鶴見大学教授の大三輪龍彦氏に御教示いただいた。

(手塚直樹・田畑佐和子)



(4)



(3)

(2)

(4)